

B50.4
90
1-2

M193A05
2

大東亞建設民族人口資料

(一)

昭和十七年二月二十日

人種 | 民族 | 人口問題關係文獻目錄

(昭和十四年一月 | 昭和十六年一月)

(和書 | 單行書ノ部)

人口問題研究所

理想無き民は亡ぶ
 日本民族海外發展史
 華僑史
 民族文化の課題
 躍進泰國の全貌
 傳統と民族
 怖るべきユダヤ民族の正體
 民族宗教の研究
 永遠の民族
 考古學入門
 蘭印の印象
 ビルマの現實
 南洋の民族と文化
 民族禮讚

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| 大野 | 柴田 | 成田 | 突戸 | 宮原 | 中山 | 江藤 | 棚瀬 | ゲイリン | 高野 | 濱田 | 高見 | 齋藤 | 井東 | 大森 |
| 賢一 | 賢一 | 節男 | 謙一 | 武雄 | 太郎 | 四郎 | 綱 | リンド | 青陵 | 青陵 | 順 | 健厚 | 憲 | 洪太 |
| 一六、九 | 一六、九 | 一六、九 | 一六、九 | 一六、九 | 一六、九 | 一六、九 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、一〇 | 一六、九 |

年九月

改訂大東亞民族の途

蒙疆の旅

日本と南洋

民族と教育

内朝一體論

アジア問題講座（アジア民族と言語）

印度民族論

印度獨立の世界史的意義と印度救済の使命
印度民族と國家、印度救済者日本等を收む

太平洋民族誌

民族と人口の理論

北東アジアの諸民族

新民族論

東亞とユダヤ問題

南支那民族史

龜井貫一郎 一六、一〇

飯山達雄 一六、一〇

中田千代 一六、一〇

渡辺幸三 一四、一一

姜英基 一四、一一

白鳥庫吉外 一四、一二

堀一郎 一五、一一

戦争文化叢書

松岡静雄 一六、五

小山榮三 一六、八

山本幡男 一六、八

芦谷瑞世 一六、八

小山猛夫 一六、八

除本松和太 一六、八

| | | |
|--------------|-------------------|------|
| 蒙古社會制度史 | 外務省調查部編 | 一六、八 |
| 東洋戰史南洋白人擄取史 | 仲小路彰著 | 一六、八 |
| 創造の民。日本民族 | 豊海豊雄 | 一六、八 |
| 緊迫せる西南アジア | 大日本回教協會 | 一六、八 |
| 東亞共榮圈と南洋羣島 | 酒井洋之進著 | 一六、八 |
| 人類學先史學講座 第八回 | 藤田恒太郎 他四氏 | 一六、八 |
| 滿洲協和會の發達 | 小山貞知 | 一六、八 |
| 民族問題概説 | 長野明 | 一六、八 |
| 人類生活史 | シユエマツケル 湯村貞太郎譯 | 一六、七 |
| アジアの人種と歴史 | ピツタール 古在學譯 | 一六、七 |
| 支那民族性の研究 | フレイシ 井上瀧二譯 | 一六、七 |
| 外蒙古横斷記 | 善隣協會 | 一六、七 |
| 猶太思想及運動 | 四天王延孝 | 一六、七 |

| | | |
|-------------------------|------------------|---------|
| 蒙古の民族と歴史 | 青木富太郎 | 一六、六 |
| 人口統計より見たる 滿洲國の緣族複合狀態 | 宮川善造 | 一五、一二 |
| 共榮國の北と南 | 平貞藏 | 一六、六 |
| 支那探訪 | 緒方昇 | 一六、六 |
| 日本風俗志(1) | 加藤咄堂 | 一六、六 |
| 佛印の動向と共榮國 | 實川勝太郎 | 一六、六 |
| ソ聯 | 小野勝三郎 | 一六、六 |
| 神話と社會 | マリノフスキ 國分敬治 譯 | 一六、六、二五 |
| 日本の風土、支那の風土 日本放送出版協會 | 脇水鐵五郎 | 一六、六、三〇 |
| 新版ゲルマニア | 田中秀夫 共譯 泉井久之助 | 一六、六、一五 |
| 猶太禍の世界 | 菅見一郎 | 一六、六、二五 |
| ドイツに於ける猶太人問題 | 菅原憲 | 一六、五 |

| | | |
|-----------------|-------|------|
| 法と民族 | 木村 健二 | 一六、五 |
| 獨逸に於けるユダヤ人問題の研究 | 菅原 憲 | 一六、五 |
| ナチスのユダヤ政策 | 清水 宜雄 | 一六、五 |
| 南洋民族侵略戦 | 仲小路 彰 | 一六、五 |
| 民族戦 | 長野 朗 | 一六、四 |
| ナチスのユダヤ政策 | 清水 宜雄 | 一六、四 |
| 新東亞の諸民族に訴ふ | 溫本 宗堯 | 一六、四 |
| 滿蒙の民族と宗教 | 赤松 智隆 | 一六、四 |
| 支那民族發展史 | 旗田 勲 | 一六、二 |
| 支那民族發展史 | 旗田 勲 | 一六、二 |
| ナチスのユダヤ政策 | 清水 定雄 | 一六、二 |
| ナチス叢書 | | |
| 民族分裂に脅ゆるアメリカの苦悶 | 難波 義雄 | 一六、二 |
| アジア民族政策論 | 細川 嘉六 | 一五、二 |

| | | |
|------------------------|----------------------|-------|
| 民族の共榮 | シドニー・ウェツブ | 一五、一二 |
| 政治。經濟。民族 | 立花 十郎 | 一五、一一 |
| 政治性格學 | 加田 近二 | 一五、一〇 |
| 泰國に於ける諸民族に就て | 喰代 麟 大日向 勝 譯 | 一五、九 |
| ロシア民族政策 | 常岡 悟郎 | 一五、九 |
| 近代支那民族運動史 | 花岡 止郎 | 一五、一〇 |
| 支那民族性の研究 | 石川 正義 | 一五、一〇 |
| 漢族の性格を語る | 松岡 壽八 | 一五、一〇 |
| インドネシアの民族と文化 | 永持 徳一 | 一五、一〇 |
| ナチス獨逸民族協同體に就て | 竹井 十郎 | 一五、一〇 |
| 人種の問題 岩波新聞題 (69) | 伊藤 邦四郎 | 一五、一〇 |
| 支那民族史 | ハックスリ・ハットン 小泉 丹 譯 | 一五、七 |
| | 小家 文炳 小口 小郎 譯 | 一五、八 |

支那回教史

金吉堂 外務省譯

一五、八

蒙古人の友となりて

ゼイムス・ギルモア 著
後藤富男 譯

一四、九

恐るべきアジア民族

ハンス・マオン 著
立花士郎 譯

一四、九

支那人

東京日日新聞社編
大阪毎日

一四、九

支那の新勢。支那の基督教。支那の民族性

敎文館編

一四、九

支那の下層史

後藤朝太郎

一四、一〇

日本民族は何處へ行く

古屋芳雄

一四、一一

高砂族調査書第十六編

臺灣總督府
警務局理蕃課

一四、五

民族歴史編(一)

白鳥庫吉 著
(アジア問題講座)
他十二名

一四、七

東亞民族論

高田保馬

一四、六

白人種を敵として

櫻澤如一

一四、五

日本人種の起源新説
(大和言葉の特性)

二本木謙三

一四、六

支那民族論

現代華僑問題

九州民族論

民族と生活

人種學概論
人種の基礎概念、人種微表の分析と
構成、人種分類の概観の三篇を収む

日本民族の人陸還元

民族學年報（第一卷）

人類學先史學講座
第七卷 日本人の頭腦外二篇

民族と文化

民族文化と世界文化、民族の本質、
民族意識、民族發展の三段階他十六
篇の論文を収む。

人種と歴史

人種學的に見たる民族發達史(1)

高フオルケ著
山洋吉譯

山崎清三著
漢平譯

森平太郎

西村眞次

小山榮三

金子定一

民族學研究所編

雄山蘭編

小松堅太郎

エ。ピツタール著
古在學譯

一四、七

一四、五

一四、八

一四、一

一四、一

一四、一

一四、二

一四、二

一四、三

一四、三

ヨーロッパ民族の研究
I 人類學的に見たる民族發達史(2)

近代民族主義思潮

回教徒 (岩波新書 33)

支那の國民性

人類學先史學講座
齒牙の人類學他四篇

東亞民族結合と外國勢力

日本民族は偉大なるか

日本民族の理想

比律賓民族史

蒙古の民族と歴史

東亞民族の指標

支那民族構成史

支那民族根源に關する諸説、支那民族の同化
構成の基本成分、支那民族の歴史、
過程及び活動區域の變遷、
蒙古族、回族、藏族、苗族の歴史、
風俗、生活等を收む。

E. ピットキル
古在 譯
一四、三

カールトン・ヘイズ
小林 正之 譯
一四、三

笠 間 杲雄
一四、四

弘 瀨 八郎 編
一四、四

雄 山 園 編
一四、四

尾 崎 秀 實
一六、六

進 藤 恒一郎
一六、六

松 岡 洋 石
一六、六

外務省調査部
一六、六

青 木 富太郎
一六、三

西 山 庸 平
一五、二

宗 野 文 炳 著
支那文化叢書 譯
一五、二

民族共同体の生産青年

- 第一篇 青年保護法とヒットラーユネーゲン
- 第二篇 民族協同体と労働保護問題
- 第三篇 青年保護法とその解説

アフリカ、アメリカ、大洋洲の人類
 一人種學的に見たる民族發達史(5)

農業支那と遊牧民族
 ステツアと歴史、内蒙古民族主義の史的展望、萬里長城の起源、内陸アジアの隙商性、蒙古民族の遊牧性、蒙古、新疆、西藏の六編を収む。

支那の性格

ソロン族の社會

支那民族論
 一 西南支那の民族及種族

土井竹治 一五、二

エ・ピツタール 著
 古在學 譯 一五、二

オウエン・ラテイモア 著
 後藤富男 譯 一五、三

A. H. Smith 著
 白神徹 譯 一五、三

上牧瀬三郎 一五、三

須山卓 一五、三

借り出したときは

- 本は大切に保管しましょう。
- 必ず期日を守りましょう。
- よごさないようにしましょう。
- 折目をつけないようにしましょう。
- また貸しをやめましょう。